

この台本の記載は、本編音声とは一部内容が異なることがあります。」

主人公がクラブ・マズインウオッシュの受付にやってくる。カウンターに立つシオリが対応する。

緊張してやってきたであろうM男性客に対し、微笑みを浮かべながら丁寧に。

【シオリ】いらっしやいませ。ローザ様をご予約のお客様ですね。少々お待ちくださいませ。

ローザが待機する部屋に、シオリが電話を入れる。

【シオリ】フロントです。ご予約のお客様が来店されました。スタンバイお願いします。……え？ はい……、はい……、はい……承知しました。よろしくお願いします。

シオリ、受話器を置く。

【シオリ】まもなく準備が整います。お客様はハード調教コースのご利用は初めてでいらっしやいますね？

1

主人公（以下、「主」と省略）…はい

【シオリ】それではローザ様の準備が整うまで、注意点をご説明します。とても大事なことです。しっかりとご理解いただいたうえで、お部屋にご案内します。

シオリ、液晶パネルを取り出し、主人公に説明を始める。

【シオリ】こちらの液晶パネルをご覧ください。ハード調教コースでは、こちらにございますように、ムチ、ろうそく、縄といったSMでおなじみの道具をはじめとして、ここにあるような注射針などの医療器具を使用することもあります。

【シオリ】当然ですが、肉体が傷つき、出血します。もちろん、衛生面には十二分の配慮しております。定期的に安全に関する講習も行って、万全を期すようにしています。

【シオリ】……が、それでも起きてしまうのが事故というもの。ですからわたくしどもは、お客様が使用を望まない道具は、一切使用いたしません。

【シオリ】パネルのチェック欄に、女王様に使ってほしい道具にチェックを入れていただけますか？ こちらのタッチペンをご利用ください。

ペンを主人公に渡す。

【シオリ】それではチェックしながらでかまいませんので、お聞きください。

【シオリ】まれにですが、プレイが始まってから変更をお望みになるお客様がいらっしゃいます。冒険するつもりでチェックしてみたけど、やっぱり怖くなってしまったとか……。ですから、後悔することのないよう、正直に記入してくださいね。

【シオリ】ハードコースを選択したからと言って、必ずしも身体を傷つけるような道具を使わなければならないということはありませんから。

【シオリ】当店のモットーは、あくまでも耳を通じて、お客様の心と体を責めることです。お選びいただいた道具の範囲で、お客様を調教させていただきます。

2

【シオリ】書き終わりましたでしょうか？ それでは、データをローザ様に転送いたしますね。……はい、OKです。

【シオリ】ローザ様は当店に所属する女王様の中でも経験が長く、技術のレベルもとても高いです。お客様のご様子をしっかり観察しながらプレイの内容を組み立てていただけますよ。たっぷり楽しんできてくださいね。

ローザ、部屋を出る。

【シオリ】最後になりますが、もう一度パネルをご覧ください。

ヒールの音が、受付に近づいてくる。

【シオリ】このワードをよく覚えていてくださいね。このワードが、ギブアップの合図に……

主人公、ヒールの音が気になる様子。

【シオリ】よそ見、しないでいただけます？ 大事なことを説明してからです。

主…あ、すみません。

【シオリ】どうしてもプレイを継続することが困難になったら、ローザ様の前でこのワードを大きな声で申し上げてください。いやだ、やめて、許して、などといった言葉は、もっとやってくださいというおねだりであると受け止めます。

【シオリ】ですから、どうしても無理、ギブアップというときには、このワードを躊躇なくおっしゃってください。

ローザ、主人公の真後ろに立つ。腕組みをして、少し見下ろす感じに主人公を見る。

【ローザ】ちゃんと理解した？ ん？

主人公、戸惑う。

【シオリ】お客様、お返事を。

主…あ……はい、理解しました。

【ローザ】よろしい。お前なの？ 私に調教されたいなんて身の程知らずのことを考えるおバカさんは。くす……くすくすくす。

【シオリ】ローザ様です、お客様。

【ローザ】ローザよ。ヨロシク。ちゃんと覚悟……決めてきたんだろうね？

主…は、はい。

【ローザ】本当？ 男って、最初のうちは威勢のいいこと言うくせに、プレイに入るとすぐにヒーヒー泣き言を言い出すのよね……。情けない声で泣きながらチンポだけはかたくくして…。

【ローザ】ほんととお前たちマゾって、ブタ以下の救いようがない存在なんだから。あさましいいったらありやしないわ。お前だってそうなんでしょう？

【ローザ】今からでも遅くないわ。ソフトSMコースに変更なさい？ ハードコースが怖くてしっぽ巻いて逃げた負け犬って笑いながら、やさしくおかしてあげる。

主…あ……いえ……ハードコースでお願いします。

【ローザ】ふうん……そう。変更しないの。これも男のバカなところよね。素直に変えればいいのに……見栄なんか張って……。

【ローザ】いいわ、お前がどこまでがんばれるか……試してあげる。入口ロックして。

【シオリ】もうやってます。予約のお客様はしばらくいらっしやいませんし、他のプレイルームも始まったばかりですから大丈夫です。

【ローザ】ふふ……さすがね。ありがと。

【ローザ】というわけでえ……、ほら、服を脱ぎな。

え……ここで？ と、戸惑う主人公。

【ローザ】何してるの。私に調教してほしいんでしょう？ だったら早く脱ぎな。

いや、でもねえ……と、ローザとシオリの顔色を交互に伺う主人公。

【ローザ】お前は一体なにをまごまごしているの。私の指示に従えないんならいいめてなんかあげないよ！

主人公、慌てて服を脱ぎ始める。

【ローザ】んふ……んふふふふっ。そう……そうやってさっさと脱ぐの。脱いだ服なんかどうでもいいよ。その辺に置いときな。

【ローザ】最後の一枚……パンツも脱いで、生まれたままの姿を私にさらしてごらん。

言われるままにパンツを脱いだ主人公。

【ローザ】なに股間を手で隠してるの？ どけな。気を付け。

女王様の命令には逆らえず、股間をさらけ出す。

【ローザ】あらあらかわいいチンポなこと。おしりもとってもかわいい……。たっぷりかわいがってあげるわよ……。ほら……。ほらっ……。

【ローザ】おやおやあ、チンポがこんなに反り返って……。お前、お尻たたかれてチンポ固くしちゃったの？ ねえ？ んふふふっ……。とんだ変態だねえ……。

【ローザ】まだご挨拶もともに済んでないっていうのに……。礼儀知らずにもほどがあるよ。そう思わない？ ねえ？

主、「ねえ？」と問いかけられても恥ずかしくて答えられない。

【ローザ】命令だよ。そのあさましく勃起したチンポ、今すぐ小さくしな。

【ローザ】ほら早く……。チンポ小さくしな。ほら。んふ……。んふふふっ。

【ローザ】どんどん固くなってくるじゃないの。なんてあさましいんだい。お尻をたたかれてチンポ大きくして……。とんでもない変態だねお前は。

【ローザ】ほら、前見てごらん。受付のお姉さんがお前のスケベな姿を見てる。恥ずかしいと思わないのかい？

シオリ、ひるんだり困ったりすることなく、微笑を浮かべて主人公を見つめ返す。

【ローザ】ほら、笑われてるじゃないか。お前があまりにもスケベであさましいから、受付のお姉さんに笑われちゃったんだよ。

【ローザ】お姉さんに謝りな。受付で勃起してごめんなさいって。ほら。

主人公、言われたとおりに謝る。

【ローザ】お前はほんと能無しだねえ。言われたことをただ繰り返すだけなら子供でもできるんだよ？　こんなに恥ずかしく勃起しちゃったチンポを、お姉さんの前でさらしちゃってごめんなさい、ぐらい言えないのかい？

【ローザ】ほら、私の後に続いて言ってごらん。お姉さんの目をしっかり見て言うんだよ？　目をそらしたりしたらタダじゃおかないからね。

【ローザ】女王様にお尻をビンタされて……。ほら、言いな。ぼく……。勃起しちやいました。こんな恥ずかしいところをお見せして……。ごめんなさい。どうか許してください。

【シオリ】謝られても困りますけど……。ここ、受付ですから……。それ、早く小さくしていただけませんか？

【ローザ】ほら見てごらん。叱られたじゃないか。こうなったら、許してもらえらるまで何度も謝るんだよ。ごめんなさいお姉さん、ごめんなさいお姉さんってね。

主人公、何度も謝る。

【シオリ】全然小さくなりませんね。謝る気……。ないんじゃないですか？

【ローザ】ほら、チンポ早く小さくしな。このままじゃいつまでたっても許してもらえないよ。

【シオリ】あの、ローザ様。このお方のおちんちんの先から透明なものが……。

【ローザ】あらやだ、ほんとだわ。こんなに濡らして……。

【シオリ】このお方、どうやらお尻をビンタされて勃起させるだけでは飽き足らず、その恥ずかしい姿を私に見られて興奮してるみたいです。おちんちんの先から垂れ流してる我慢汁がそのしるしかと。

【ローザ】まったく……。えらいお客がきたもんだわ。

【ローザ】仕方ない……。こうなったらここで少しつけていかなくちやならないわね。ちょっと協力してちょうだい。

【シオリ】はい、かしこまりました。

【ローザ】お前はいつも、どんなオナニーをしているんだい。こんなふうにチンポをしごかれるところを想像しながらしてるの？　ん？　ほら、チンポしごいてあげるよ。ほら、ほら、ほら。

ローザ、主人公に手コキを始める。

【ローザ】なに身体ビクつかせてるのさ。ちゃんと立ちな。気を付けの姿勢のまま、受付のお姉さんの目をまっすぐ見つめてなさい。目、そらすんじゃないよ。

【ローザ】お前もいいね？　この男がこれからどんな無様な姿をさらすのか……しっかりと観察してておくれ。

【シオリ】はい、かしこまりました。ローザ様の手コキ、拝見します。

【ローザ】こうやってチンポ……いじめられるの……好きなんだろう……ねえ。チンポいじめられるところ……想像して……自分でシコシコしてるんだろう？

【ローザ】言っとくけど……お前……こんなところで射精なんかしたら……ただじゃおかないよ。わかってるんだらうね。

【ローザ】お前に……男として……人間として……最低限の尊厳があるのかどうか……試させてもらうよ。まともな人間なら……こんなところで射精なんか……しないはずだからね。くすくすくす。

【シオリ】ローザ様、我慢汁が……床にたらしさないようにお願いします。

【ローザ】ほんとだ。お前……チンポの先からマゾ汁がだだ漏れになってるじゃないか。どうして？　どうしてこんなふうにしちゃったの？　そんなにチンポシコシコされるのが気持ちいい？　それとも、お姉さんに見られて興奮しちゃった？

主人公、顔を真っ赤にしてうつむく。

【ローザ】返事！　黙ってちゃわからないよ！

【ローザ】両方って……なんて贅沢なんだろうねお前は。ほらもうマゾ汁がたれ落ちそうになってる……。しょうがない子だねほんとに。こうやってほら、指先ですくい取って、亀頭に塗り広げてあげるよ。

【ローザ】ほら……クツチュクツチュやらしい音がお前のチンポから流れてる……。聞いてごらん、ほら、ほら、ほら……。あゝいやらし。ほんといやらしいチンポなこと。

【ローザ】ずいぶん気持ちよさそうな顔だね。うふふつ。耳を犯されながらチンポをくちゅくちゅしごかれるのがそんなにいいのかい？ しかも、情けなく感じている顔をお姉さんに見られて……。

【ローザ】ほら……、お姉さんにちゃんとお礼言わなくちゃ。まっすぐ目を見ながら……こう言うんだよ。

【ローザ】お姉さん……僕のあらもない姿を見ていただいて……ありがとうございます。ございます。僕、お姉さんに見られて興奮しちゃってます。僕の恥ずかしいところ……もっと……見てください……。

主人公、命令されるままに言う。

【シオリ】別にお礼なんかいいますけど。ていうか、キモいです、ほんとに。ご自分がどれだけキモい姿をさらしてるか……お分かりになってます？

【ローザ】あはっ。お前いま、キモいって言われた瞬間チンポビクってさせたね。興奮しちゃったのかい？

主人公、首を横に振って否定する。

【ローザ】なに、首を横に振って。興奮したんだろう？ 正直に言いな？ お姉さんにキモいって言われて興奮しちゃったんだろう？ ほら……。

【シオリ】キモ……。キモすぎ……。

【ローザ】ふふふつ、やっぱりビクビクさせてるじゃないか……。見られて興奮するだけじゃなく、女の人にバカにされるのも好きだなんて……お前はほんと変態だねえ。

【ローザ】そんなに変態なら、乳首も感じるんじゃないの？ ほら……両手で乳首いじってごらん？

主人公、乳首をいじり始める。

【ローザ】ずいぶん遠慮がちにいじるんだねえお前は。なに恥ずかしがってるんだい。もう十分恥ずかしい目にあってるんだから、今更恥ずかしいも何もないだろう？

【ローザ】ほら、乳首を自分でいじって、あられもなく感じる姿……お姉さんに見てもらいな。

【ローザ】気持ちよかったら……声……我慢しないで出してごらん。チンポもほら、こうやってしごき続けてあげる。

【シオリ】むしろ、演技でもいいですから女の子みたいにあえいでみたらどうでしょう。そうしたらリミットが外れて、もっと気持ちよくなるかもしれない。

【ローザ】そうね。それじゃあ……私も手助けをしてあげる。チンポ、もっと激しくしごいてあげるから……遠慮なく声出してあえぐんだよ。ほら、ほら、ほら、ほらほらほらほらほらほらっ。

【ローザ】いいよ、その調子……。そうやってアンアン女の子みたいにあえいで……、お姉さんにお前のもっとも恥ずかしい本性を見てもらいな。

【ローザ】お前……、だんだん自分の恥ずかしい姿をお姉さんにさらすのが快感になってきてるんじゃないの？ ん？

【ローザ】どうしようもないマゾの本性……お姉さんに見られてうれしくてうれしくてたまらないだろう。んふふ……んふふふふっ。

【シオリ】はあ……、ほんとキモ……。

【ローザ】ほら……、もっとあえがせてあげる。お前の耳とチンポを犯して……心も体も快楽で染め上げて……お前の理性なんか……ぶつつぶしてあげる……くす……くすくすくすっ。

【ローザ】それにしてもこのお姉さん、えらいと思わないかい？ お前がどんなに情けない姿をさらしても、表情一つ変えずに見てくれてるんだよ。眉ひとつ動かさないじゃないか。

【シオリ】平気です。こんなマゾの醜態に表情なんか変えたら、負けだと思つてますから。表情を変えてマゾを喜ばせるのも癪に障りますし。

【ローザ】なんて言われてるけど……どうなんだいお前。じつのところ、こんなふうに冷たい目で見られる方が興奮するんじゃないのかい？

【ローザ】お前……このお姉さんに負けてるよ。私に耳とチンポをなぶられながら、お姉さんの目で心を犯されて……、お前の心……すっかりお姉さんに負けてしまつてるんだらう？

【ローザ】お姉さんに心を犯されて……お前は本当に弱くて情けない男だね。チンポからもほら、どんどんマゾ汁が染み出してきてる。

【ローザ】心も体も私たちに犯されて……チンポがもう悲鳴をあげてる……。もうそろそろイきそうになってきたんじゃないの？

【ローザ】でも……射精は許さないよ。あたりまえだろう、ここは受付だよ？

【シオリ】そうですね、困ります。

【ローザ】それに、こんなん射精するようなやわな男じゃ、この後の調教には耐えられないよ。マゾブタはマゾブタらしく、養豚場に帰ってもらうからね。

【ローザ】なあに、そんな不安そうな顔して。お前が射精しなきゃ済む話なんだから、何も問題ないだらう？ ん？

【ローザ】それとも……本当にイきそうだっていうのかい？ この程度の手コキで、チンポの先から精液びゆるびゆるーって噴き出させちゃうのかい？

【ローザ】コラ。手……止まつてるよ。乳首いじるのやめていいなんて一言も言っていないからね。

【ローザ】ここではお前に人権なんかないの。私がやれと言ったら、やめろと言われるまでやり続けなきゃならないのよ。逆にやめろと言われたら、お前がどんなにやりたくてもやめなくちゃならない。

【ローザ】お前の意思なんてものは、ここではなんの価値もないの。私の言葉でお前の心をしばりつけて、私に服従することがお前にとってどんなに幸福をもたらすか……これからたっぷりと教えてあげる。

【シオリ】普通の男の人なら、嫌がるのが当たり前ですけどね。そんな屈辱的なこと。

【ローザ】そう。でも……この男はそうじゃない。女に屈服させられることに喜びを感じるマゾブタだもの。現に、私だけじゃなく、あなたの視線で心を犯されて、羞恥心で顔を真っ赤にさせて喜んでる。そうよね、マゾブタ。

【ローザ】ほら返事。何度言えばわかるの。ほんとうにダメな男だねお前は。

【シオリ】もう快樂のことしか頭にないんじゃないでしょうか。自分が気持ちよくなればあとのことはどうでもいいんだと思いますよ、この方は。

【ローザ】なんてわがままなんだろうねえ……。もうこの格好のまま外に放り出しちゃおうか。

主…そ、それは……。

【ローザ】イヤ？ それはイヤなのかい？ だったら、ちゃんとしてなくちゃだめだろう？ マゾブタはマゾブタらしく、私に忠誠を誓って、私のすべてに服従するんだよ。いいね？

【ローザ】よろしい。じゃあ、少しだけご褒美をあげる。これ……好きだろう？

【ローザ】私だって鬼じゃないんだから……いうことを聞いた子にはご褒美をあげるからね。気持ちいいことされるの……好きだろう？

【ローザ】くすくす……チンポが私の手の中で喜んでる……。こんな風にチンポをなぶられるの……大好きだろう？ ん？ くちゅくちゅいやらしい音をさせて……本当にスケベで淫乱だね。お前のチンポは。くす……くすくす……。

【ローザ】ほら……くちゅくちゅくちゅってこんなに大きい音をさせて……お姉さんに聞かれちゃってるよ。淫乱チンポの音も、お前の女の子みたいな恥ずかしい喘ぎ声も、お姉さんに聞かれちゃってる。

【ローザ】恥ずかしいったらありやしないねえ。私の手でチンポをなぶられて、お姉さんの目で心を犯されて、もうワケわかんなくなってるんじゃないのかい？ええ？

【ローザ】どんなに気持ちよくなっても、私の言葉には絶対服従だからね。いいね。

【シオリ】ローザ様、この方……どうやらまたイきそうになってるご様子です。

【ローザ】そうみたいだねえ。私の手にもチンポが悲鳴をあげてるのがビンビンに伝わってきてる。でも……だめだよ。お漏らしは許さない。お前も男なら、根性見せてごらん。

【ローザ】ん？ なに？ どした？ ダメって言うてるだろう。ほら……、ほら……、ほら……、ほら……。

【ローザ】お前……やっぱり快楽に負けちゃうのかい？ 私の手が気持ちよすぎて……精液出しちゃうのかい？ この先も私の調教を受けたいんだろう？ だったら我慢しな、我慢。

【シオリ】いよいよヤバそうです……ここで射精するのは本当にやめてくださいね。そんなの見たくないですから。

【ローザ】ほら……お漏らししないようにお尻たたいてあげる。これで少しは気がまぎれるだろう？

【シオリ】ローザ様にお尻ぺんぺんされて喜んじゃってるようにも見えますが……。まあなんにせよ、我慢……してくださいね。

【ローザ】うふふ、そんなにつらそうな顔して……。負けてしまうのかい、お前は。私の手に負けて、精液をお漏らししちゃうのかい？

【ローザ】でもダメ。絶対にダメ。お漏らしは許さないよ。どうしてもお漏らししたかったら、お願いしてごらん。もう限界です。お漏らしさせてくださいってね。

【ローザ】そう……そんな感じでお許しが出るまで何度でもお願いしてごらん。

【ローザ】まだだよ、まだお漏らししちゃだめよ。まだだからね。我慢……、我慢……、我慢……、我慢……。絶対にダメよ、絶対に……。許さないからね、絶対に。絶対にお漏らし許さないから。

【ローザ】ほら、ほら、ほら、ほらっ、イクな、イクな、イクな、イクなっ。ほらほらほら……。ほらほらほらほらほらほらほらほらほらほらっ。

【ローザ】ん？ イク？ イっちゃうの？ ダメ。ダメだって言ってるでしょ。イクなイクなイクなイクなっ。お漏らしするなっ。ほら……。ほらあっ！

（射精）

【シオリ】あ……。しちゃいましたね、お漏らし。

【ローザ】なにお漏らしちゃってるのよこの能無し！ あれほど私に絶対服従するように命令したのに、何も聞いてなかったのね。ほんと頭にくるわ……。このマゾブタが。

主…き、気持ちよすぎて……。

【ローザ】気持ちよかった？ ん？ 私の手がそんなに気持ちよかったのかい？ あーあーまったく、うれしいねえ。こんなに喜んでもらって。

【ローザ】よかったねえ、気持ちよくしてもらえて。私の命令に逆らってお漏らしするの、さぞ気持ち良かったろう？ ん？

【シオリ】ローザ様の命令を破ってお漏らししてしまう礼儀知らずのマゾブタにふさわしい、とっても無様な顔でした。写真に撮っておけばよかったです。

【ローザ】ほら、こっち来な。命令に従わなかった罰を与えてあげる。お前の性根を、根本から叩き直してあげるわ。